

集まる、流れる

K019D1232 神藤愛加



■ 選定敷地

近くに水生植物園など公園内でも多くの観光資源があり、周辺には桜広場などのパブリックなスペースが点在する中、この地はただの通り道と化してしまっている。「道」としての機能は保持しつつ人が留まれるような施設を作ること、誰もが気軽に立ち寄れるコミュニティセンターを目指した。



■ ハンノキの木



耐水性があり、低地の湿地など田んぼのほとりに森林を形成する。以前は稲のはぎ掛け用に植栽されていたが、現在では公園樹として池のそばに植えられる。



水田



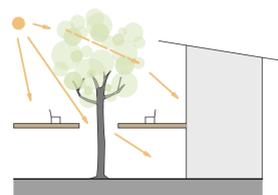
水生植物園

■ 地下と林

池を一周するためにはこの施設を通り抜けなければならないことを意識し、建物を分棟にして屋外のスペースを多く設け、建築物が目立ちすぎないように施設の半分を地下に埋めた。また、元からあるハンノキの林はなるべく伐採しないように意識し、農業体験のできる施設のシンボルとして生かした。

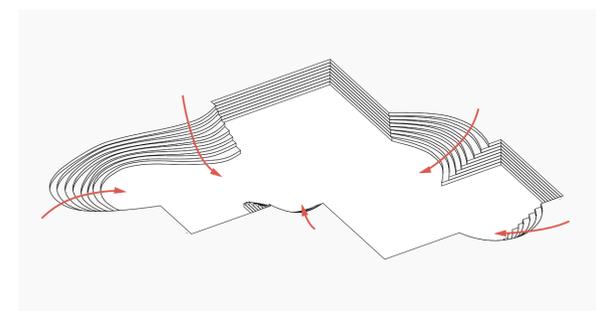


■ 樹木による採光



デッキに吹抜を作ることでより地下部分への採光を可能にした。また、吹抜部分に樹木を植えることで反対に一階部分は直射日光を避け、どこにいても心地の良い採光となるようにした。

■ 集まる ～棚田で地形を作る～

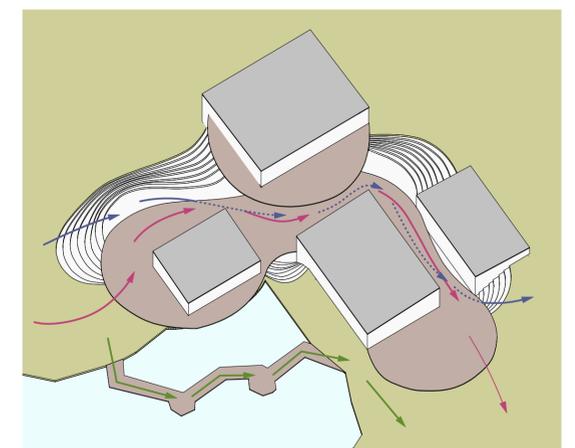


棚田とは山の斜面などの傾斜地に階段状に作られた水田。棚田の高低差により水の流りができ、灌漑などが行いやすくなる。

■ 地形を棚田にするメリット

実際の棚田における「水」の概念を、この地形では「人」に置き換えて考えた。中心に向かって高度が下がることで人も水と同じように中心へ流れ、様々な方向からアクセスすることができる。

■ 流れる ～施設を抜ける三通りの方法～



- ① 施設一階のデッキ部分を通り抜ける
- ② 階段を下りて地下を通り、また階段を上って地上へ戻る
- ③ 元々ある橋を渡る



デッキから野鳥を眺める人たち
 休憩室のデッキ(左)と、元々公園にあった八つ橋(右)に囲まれた池の空間は野鳥たちにとっての休息の場にもなっている。以前から野鳥を眺めるために橋で立ち止まっている人が多かったことを踏まえ、施設側にも池を見渡せるデッキを設けた。

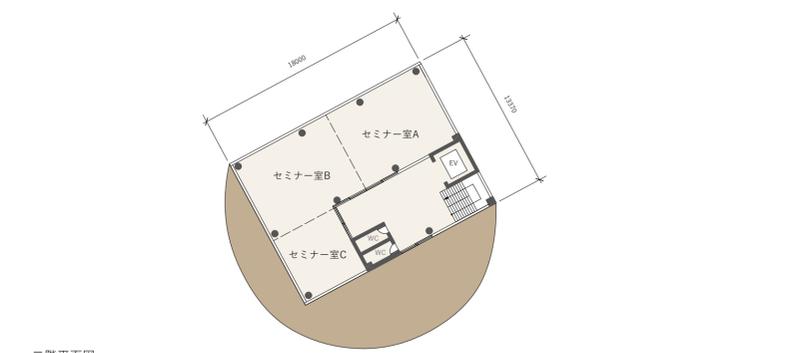


元の八つ橋からの眺め

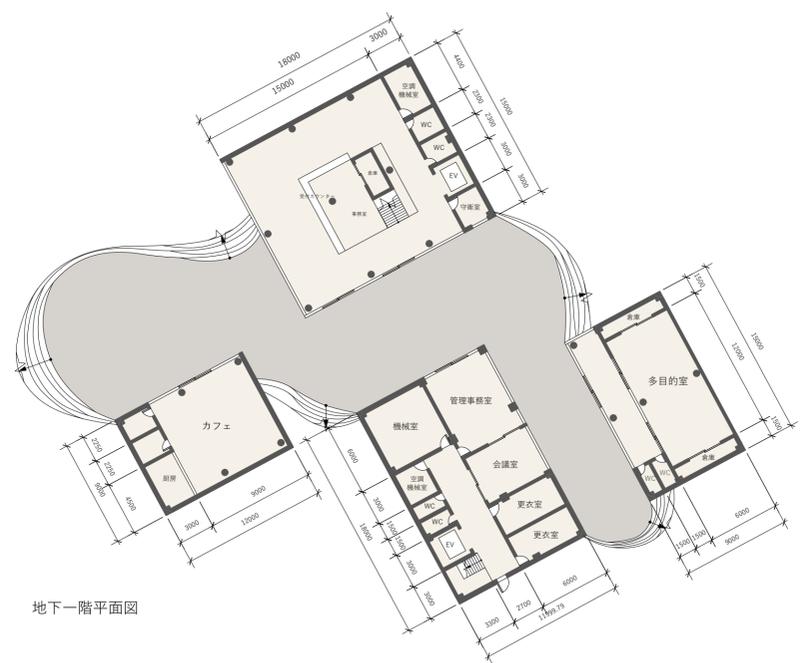
デッキと地下の関係性
 大きな曲線で描かれたデッキの下部は棚田状に掘られた地下空間が広がっている。棚田階段は軽く腰掛けることも可能。地上のデッキと地下の空間は通り道でありながら、人々が安らぐ場としての役割も果たしている。

地下の空間
 地下は基本的には建物同士をつなぐ廊下のような空間であるが、休憩スペースにもなっている。図書館の本を持ち寄って読書をしなが、カフェのメニューも楽しめる場所である。

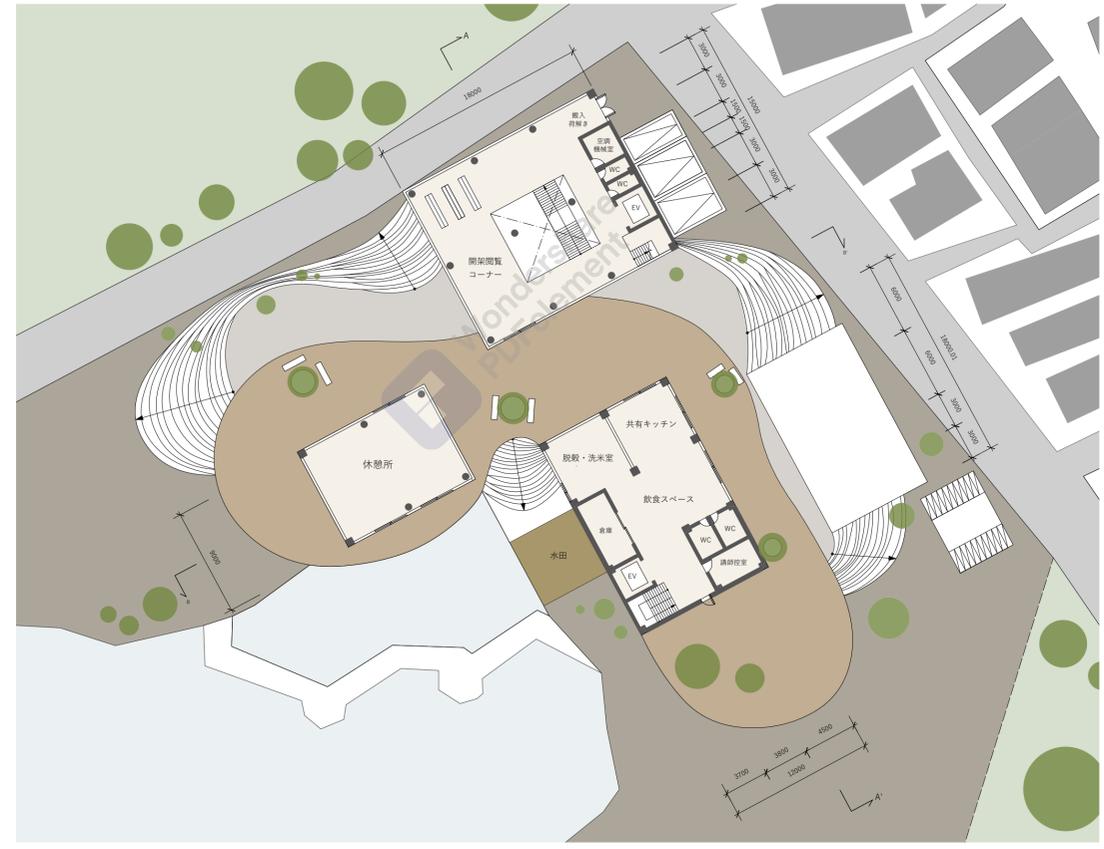
図書室(開架閲覧コーナー)
 地下の受付を抜け、吹抜のある大階段を上るとある。開架閲覧コーナーは地上から直接アクセスすることもできる。



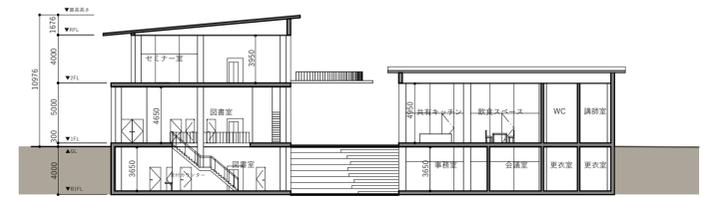
二階平面図



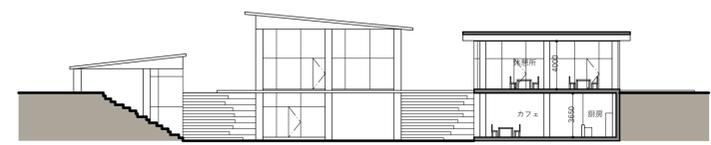
地下一階平面図



一階平面図



A-A'断面図

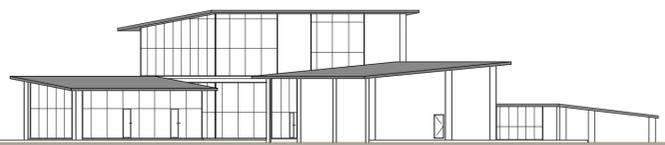


B-B'断面図

区民活動ゾーン
 元々小学校で農業体験で使用されていた水田を移動・拡張し、地域の人や観光客など多くの人が気軽に利用できるようにした。また、農業体験によって得られたお米は共有キッチンで一般の人たちが調理し、飲食スペースで味わうことができる。体験→調理→飲食の流れが地域の人との交流を生み、地元の良さを広めることを目的とした。

基本情報

所在地	東京都大田区南千束 2-13-1
構造	鉄骨造
最高高さ	10.98m
地下一階床面積	729㎡
一階床面積	594㎡
二階床面積	240.7㎡
延床面積	1563.7㎡
建築面積	729㎡



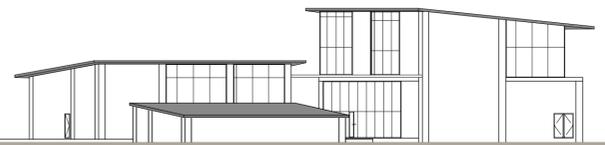
南側立面図



西側立面図



北側立面図



東側立面図